

ビジネス支援情報誌

# 東経情報

<http://www.tokyo-keizai.co.jp/>

## 経営は心

## 決断力

決断 これはリーダーの使命だ 東電原子力部門の最高責任者 武藤栄副社長は決断を誤った 下請けの社員たちは口を揃えてこれは人災だと訴える 躊躇したのは海水投入だ 海水を投入すると原子炉は廃炉になる この迷いは東電株主から株主代表訴訟を起こされる これが決断を躊躇させた最大の理由だろう 記者の質問に対し武藤副社長は返事をしていないがまず間違いない このためらいが水素爆発を起こす要因となった 東電は福島第一原発6基の廃棄では済まず 東電の存続まで危うくした 日本の原子力行政そのものを見直す動きがでるし 国民はどれだけ不自由な生活を強いられようと もう原発はいらないと「NO」を突きつけるだろう これからすべての選挙の争点は原発推進か反対かで決まる社会になる トップの決断とは会社だけでなく 時の政権まで転覆させるものとするべし 決断を英断にするには自分を捨てることだ 保身しか頭にないトップは即退陣せよ 「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」

### PICK UP記事

スクープナビ	.....	12
スクープナビ	.....	13
スクープナビ	.....	14

## 東京経済株式会社

発行所:東京本社 営業本部 / 〒104-0045 東京都中央区築地3丁目10番2号(第6東横ビル)  
TEL / 03-3544-6620 [購読料] 年80,000円





# 多事多端な時ほど 冷静 沈着になれ

## ◆ 目 次 ◆

ひと言  
ビジネス最前線  
東経トピックス  
かわら版  
本店・事務所移転  
プレスリリース  
決算・業績予想修正

地区によって内容は異なります。

金融経済概況  
経営事項審査  
官報公告  
警 鐘  
公共工事  
不動産競売  
ゴルフ会員権  
点 描  
巷 説  
C-D企業  
スクープナビ



【東北地区】

## 東日本大震災の余波

東日本大震災発生から既に1カ月以上が経過し、徐々に復興の兆しが見え始めているものの、隣県での福島原発問題が治まりを見せず東北全域に暗い影を落としている。景況の悪化による破綻なども発生しているが、特に流通面の正常化が遅れ、東北管内に物資が行き渡っておらず、これによる破綻も発生し始めている。

宮城県岩沼市に本社を置く(株)旭搬送機工業(4月14日破産手続開始申立、自動機械化装置製造販売)は、今期は受注が好調で増収増益が見込める状態であったが、東日本大震災を原因とする地震・津波による被害で壊滅的な被害を受けた。同所は現在でも道路が寸断された状態でライフラインの復旧も見込めない状態で、事業継続が困難となり事業を停止した。

また、4月20日に事業を停止した(株)栄進(秋田県能代市、羽目板製造)は、以前に破綻した栄進銘木合板(株)(H19.4事業停止)の営業権を受け継いで設立した受け皿的な会社であった。当初より財務面の脆弱さが指摘され、売り上げも3億円程度と前身会社の1割程度まで縮小したが、収益面の見直しも行い再建へ向けて着実に歩んでいた。しかし、今回の震災により原材料の入手が難しくなり資金面が限界に達したことで、事業停止を選ばざるを得ない状況となり、大震災を直接的な原因とする倒産では県内初となった。

岩手県でも、被害が大きかった沿岸部の大船渡市に本社を置く(株)イーテクス(岩手県大船渡市、船舶エンジン機器販売)も4月に入って事業継続を断念した。

もともと、財務面が債務超過で、競合激化や需要低下等も影響し薄利での経営を余儀なくされていたことから厳しい経営状況で知られていた。この状況の中、今回の大震災により商品が流出したことが経営悪化に追い打ちをかけ、震災による地元経済の乱れもあって事業継続を断念し、岩手県では震災を原因とする初の破綻となった。

さらに、金融機関の間でも震災による被害を原因として、宮城県の第2地銀である仙台銀行(仙台市)が公的資金申請の検討に入ったが、その後、宮城県下最大の地銀である七十七銀行(仙台市)も同様に申請の検討に入った。

仙台市内では今回の震災による商業ビルの補修工事が始まっている。しかし、建物補修中に思うような営業ができないことを理由に、店子であるテナントの転居等が相次ぎ、建物の補修は済んだが店子がいなくなったという状況が起こり始めている。もともと仙台市内の商業ビルは入居率の低さが問題となっており、厳しい資金事情のところも少なくないことから不動産業者の間では不安の声も上がっている。引き続き宮城県沿岸部では、いまだライフラインが復旧していない地域も残っており、経済活動が本格化したとはいえない状況。今後、大震災を直接的な原因とした破綻が相次ぐとの見方もあり、「少しでも前に進みたい」と国民すべてが思っているが、1,000年に一度と言われる大災害だけに、復興の歩みは遅く、経済に与えた傷跡も深い。(秋 場)

# 倒産状況

平成23年4月度

## 九州・沖縄地区企業倒産状況 (負債総額 1,000万円以上)

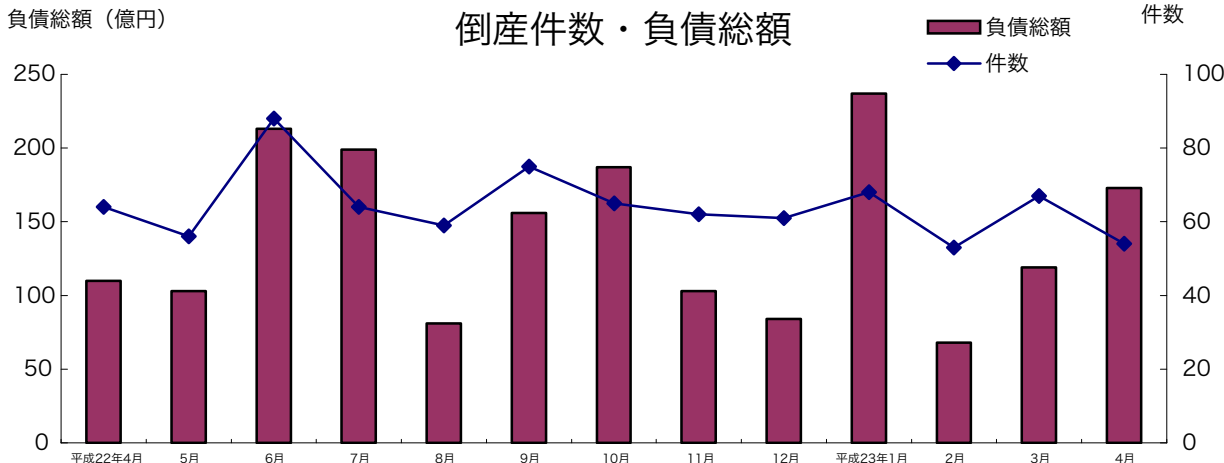
～ 4月度としては件数は平成に入り最低  
負債総額も4番目の低水準 ～

倒産件数 54件	負債総額 173億0,100万円
----------	------------------

前年同月比	件数	10件減	15.6%減	(前年同月)	64件
	負債	62億7,700万増	56.9%増	(前年同月)	110億2,400万円
前月比	件数	13件減	19.4%減	(前月)	67件
	負債	53億1,900万増	44.4%増	(前月)	119億8,200万円

### 【4月の特色】

- ◆ 件数は4月度としては平成に入り最低となり、22カ月連続で前年同月を下回った。
- ◆ 負債総額は3カ月ぶりに前年同月を上回ったが、4月度としては平成に入り4番目の低水準となった。
- ◆ 2カ月連続で10億円以上の倒産5件が発生。
- ◆ 地区別件数では前年同月比で増加したのが宮崎県、鹿児島県、沖縄県の3県で、他の5県は減少。
- ◆ 地区別の負債総額は熊本県および大分県を除く6県で増加した。
- ◆ 原因別では売上不振が36件発生し他原因を圧倒。不況型倒産は43件で47カ月連続70%超。
- ◆ 業種別では建設業が20件(構成比37.0%)で、従来通り最多業種となった。
- ◆ 従業員別では29人以下が50件で構成比92.6%と大半を占めた。100人以上の倒産はなかった。
- ◆ 法的申立は44件発生。うち破産手



続開始が38件、民事再生手続開始が4件、特別清算手続開始が2件であった。

#### 【概況】

平成23年4月度の九州・沖縄地区の企業倒産(負債1,000万円以上は、件数が54件で前月比では13件減、前年同月比でも10件の減少となった。負債総額は173億0,100万円の前月比53億1,900万円の増加、前年同月比でも62億7,700万円の増加となった。

件数の54件は4月度としては平成に入り最低、22カ月連続で前年同月比マイナスとなった。負債総額は3カ月ぶりに前年同月を上回ったが、4月度として平成に入り4番目の低水準となった。

地区別件数では前年同月比で増加したのは沖縄県(7件増)、鹿児島県(3件増)、宮崎県(1件増)の3県。他5県は減少し特に熊本県は10件の大幅減となった。負債総額では前年同月比で減少したのは熊本県および大分県の2県で、他の6県は増加した。

原因別では売上不振が36件発生し構成比66.7%で圧倒数を占める。以下、その他が7件(構成比13.0%)、採算割れが5件(同9.3%)、資本過小が2件(同3.7%)、焦げ付き・連鎖、設備過剰、回収遅延および旧債圧迫が各1件(同1.9%)と続く。不況型倒産(売上不振、採算割れ、焦げ付き・連鎖、回収遅延)は43件で全体の79.6%となり、47カ月連続で70%以上を占めた。

業種別では建設業が前年同月比3件減となったものの20件(同37.0%)で引き続き最多業種。サービス業が12件、小売業

9件、運輸・通信業、不動産業および製造業が各3件、金融・保険業が2件、卸売業、農業が各1件と続く。

資本金別は1,000~4,999万円が21件(同38.9%)で最多、499万円以下が15件(同27.8%)と続く。また、4カ月連続で資本金5,000万円以上の倒産が発生した。

負債額別では2カ月連続で負債10億円以上の倒産(5件)が発生した。1社当たりの負債額は3億2,000万円となった。

法的倒産は44件発生。うち破産手続開始が38件、民事再生手続開始4件、特別清算手続開始2件であった。

#### 【見通し】

九州・沖縄地区の企業倒産件数は54件で4月度としては平成に入り最低となり、22カ月連続で前年同月を下回った。また、負債10億円以上の倒産が5件発生、負債総額も前年同月比62億7,700万円の増加となったが、4月度としては平成に入り4番目の低水準となっている。引き続き政府主導による金融支援策が倒産件数の抑制に大きく寄与している。

ただし、倒産の最多業種状態が続く建設業については、東日本大震災発生後、資材の品薄や値上がりなども聞かれ、環境的には一時期の回復傾向に水を差す形となっている。また、ホテルやイベント企画といったサービス業などでも震災後、環境悪化が聞かれている。昨今の市況悪化の中で体力を消耗している企業も多く、震災の影響も一概に否定はできない。今月に入り行き詰まりを表面化している企業も既に複数あり、再び倒産が増加する可能性もある。

# 東経マンの倒産検証

## (株)テヅカ～スクラップ処理機械製作

### 専門メーカーとしては国内3位だったが？

技術力に長けたベテランスタッフを多く擁していた(株)テヅカは本社(福岡県古賀市)他、一時期は東京支店(千葉県柏市)、大阪支店、名古屋支店も配し、スクラップ処理機械製作専門メーカーとしては国内第3位の業容を誇っていた。しかし、リーマン・ショックや東日本大震災の影響といった外的要因に翻弄され万策尽き、ついに4月28日、福岡地裁に民事再生手続開始を申し立て、同日同地裁より同手続開始の決定がなされた。負債総額は15億9,558万円の大型倒産であった。

当社は平成4年6月、現代表取締役社長 下田 善吉氏が設立した。当初はスクラップ機械のメンテナンス業務を中心に行ってきたが、同10年頃より製作業務も手掛けるようになり業容を拡大。折しも同14年にはアジア経済の活況などで世界的な金属需要の追い風に乗り年商は10億円を上回るようになっていった。事業拡充のため同17年には古賀市に現社屋と工場を建設した。その後もスクラップ機械の需要は拡大、同19年3月期には約18億円の年商を計上、さらに同20年3月期には約31億円の年商となり急伸していた。しかし、その後、同20年9月のリーマン・ショックが当社を襲う。スクラップ価格が大暴落、同月から半年間、機械製作の受注が1件もないという事態が生じた。本店建設や事業拡張のために導入した銀行借入金の返済負担が重くのしかかるよ

うになり、たちまち資金繰りが悪化、金融機関に対しリスケ等の支援要請をするに至った。その間、枯渇していく資金を補うべく、あまり採算性の伴わない受注も請け負うようになった。それでも年商は激減、同21年3月期は約13億円、同22年3月期は10億円弱と大幅に低下、利益面も大幅な採算割れに陥った。業容の拡大に備えて某業者に発注していたクレーン機械が当社側の都合で急きょキャンセルせざるを得なくなったため、業者に訴えられるといった訴訟案件を抱えるなど注目を集めた経緯もあった。

そうした中、3月11日、東日本大震災が発生した。地震の影響で同月受注予定であった物件のキャンセルが相次いだ。さらに、回収延期も発生、同月の買掛金の支払いにも窮するようになり信用不安は急拡大した。その後、4月の受注件数はさらに減少、4月末の手形決済が困難な状況となり、ついに今回の事態に至った。

主要債権者は約10行の金融機関。金融債務は13億円以上にも達し、金融機関の協力なくして再建は不可能な状態にある。



また、協力業者に対する支援要請交渉も継続されているが、事業計画書によれば、製作部門における現時点の受注残が4億7,000万円、メンテナンス等のサービス売上高が2億8,000万円を見込むなどで初年度売上高は8億5,000万円、総利益は1億7,000万円、営業利益は約8,300万円を予想。リストラについては既に役員報酬の40%カットや従業員給与の15%カットを行っていたが、さらなる役員報酬のカット、従業員の削減は当然免れないだろう。返済原資についてであるが、信用失墜による受注減などを見越して、現状において実現可能とみられる手堅い計画としている。具体的な数値としては年商が約6億8,000万円、営業利益は約5,800万円、同営業利益が主な返済原資となる

予定。なお、再生計画認可時に問題となる債務免除益が発生した場合、この免除益に対する税金については民事再生法に基づく財産評定をした場合に生じる評価損および繰越欠損金と減価償却費によりほぼ相殺される見込みであり、今後の事業継続の支障とはならないものと想定されるとのこと。

倒産の最終的な引き金は震災の影響によるものであったが、従来、スクラップ価格や機械需要の乱高下に大きく左右されやすい企業体質が財務面や資金面の劣化を招いてきたと指摘されていた。そのため今後はメンテナンス部門に強化を図っていく方針とのことだが、スムーズに移行できるか？高い関心が寄せられている。

## プレスリリース

### (株)リッチェル

#### 新SGベビーカー FRカルネオ セキュア 販売

ベビー用品開発・製造の(株)リッチェル(富山市、蓮池 浩二社長)は、軽さと扱いやすさで定評があった同社のベビーカー「ファインアールカルネオ アッパー」をリニューアル。軽量・コンパクトというコンセプトはそのままに、新たにSG基準を取得し、「ファインアールカルネオ セキュア」として、4月25日より全国のベビー用品専門店を通じて販売を開始した。全国的に使用者が増加しているセカンドベビーカー(お子さまの成長に合わせて2台目に買うベビー

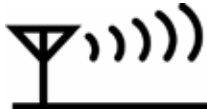
カー)として適している。走行時の振動を軽減する全輪サスペンションや座面幅32cmのワイドシート、日差しの方向に合わせて角度調節できる丸型日よけ、通気性の良いメッシュシートなど、お子さまが快適にすごせる機能を多く採用。カラーはブラック、グリーン、パープル、ブラウンの4色。

#### 【問い合わせ先】

(株)リッチェル

〒939-0592 富山市水橋桜木36

<http://www.richell.co.jp/>



# スクープナビ

## (株)クギザキ

債権者判明

負債総額 3億9,059万円

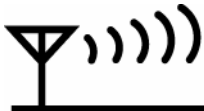
所在地：  
業種：  
設立：  
代表者：  
資本金：

## (株)永家組

破産手続開始申立準備

負債総額 2億円内外

所在地：  
業種：  
設立：  
代表者：  
資本金：  
年商：



# 続報 あの会社は…いま?

福岡	破産手続開始決定
	(株)松屋

福岡	破産手続開始申立
	(有)明豊産業運輸

## ■個人情報保護法第23条第2項「第三者提供におけるオプトアウト」の告知

当社の作成・発刊いたします、調査レポート・定期刊行物等には、一部個人データが含まれておりますので、個人情報の保護に関する法律23条2項に基づき、以下のとおりお知らせいたします。

1. 当社発刊物等に含まれる個人データは、当社が保有する、個人の氏名・住所・年齢・役職名・経歴・不動産状況・家族状況等です。
2. これら個人データは、第三者への提供を目的として当社が取得保有するものです。
3. 第三者提供の手段・方法は、当社が作成・発刊いたします調査レポート・定期刊行物・書籍・情報誌・インターネットホームページへの掲載です。
4. ご本人のお求めに応じまして、ご本人が識別される個人データの第三者への提供は停止いたしますので、当社下記相談窓口までご連絡いただきますようお願いいたします。

コンプライアンス室 0120-55-9986 ※詳細は弊社ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.tokyo-keizai.co.jp/>